

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会
地域共生型社会推進事業助成金

事業完了報告書（公開用）

1、概要

報告日	西暦 2023 年 8 月 20 日
報告者	大町 航也
助成団体名 (所属団体名)	びわフリ ～ びわ湖フリーわいわい
団体住所	滋賀県 <small>都道府県</small> 大津市 ※個人宅のため以下非公開
団体電話番号	※個人宅のため非公開
代表者 (助成対象者)	大町 航也
助成対象事業	びわフリ ～ びわ湖フリーわいわい
事業（助成）期間	2021 年 4 月 1 日 ～ 2023 年 3 月 31 日
事業費総額	710,593 円
助成金総額	564,680 円

※住所・電話番号等は団体のものを記載し、個人情報に関わることは記載しないでください。

次ページ以降に「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」を簡潔に記載してください。

注意事項

- ①共済会ホームページに掲載しますので**個人情報の掲載は禁止**します。
- ②「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」は**合計5ページ以内**で作成してください。
- ③**写真の掲載は原則禁止**しますが、どうしても必要な場合は最小限度に留めてください。
- ④写真を掲載される場合は必ず撮影対象の方に事前に了承を頂くようお願いします。
- ⑤必ず Word ファイルのまま shigakyo@cello.ocn.ne.jp へメールにてお送りください。

2、事業内容

いわゆる不登校や五月雨登校、別室登校など学校に行きづらい思いをしている子どもたち（小中学生）や、学校以外の場（フリースクールやホームスクールなど）で学んだり成長したりしている子どもたちとその保護者さんを対象とした活動です。月1～2回、主に大津市内の公共施設で開催しており、保護者さん同士の情報交換や交流、親子さんや子ども同士でのスポーツや遊びの場としております。

びわフリの活動に参加することで、他人との関わりや外出等を体験し、子どもの自己肯定感や主体性の醸成、他人への信頼を取り戻すきっかけづくり、そして学校や地域とのつながりが薄くなりがちな保護者さんの孤立を防ぐことを目的としています。

3、事業成果

① 不登校状態の子どもについて

様々な理由や背景によって不登校や五月雨登校、別室登校の状態となった子どもたちには、「みんなは学校に行っているのに、学校に行けない自分はダメなんだ」、「おとうさん、おかあさんが僕、私のことで心配している、ケンカしている」、「今日も起きられなかった」、「まわりの人（大人、子ども）が怖い」、「でもやっぱり学校に行くのはしんどい、辛い」、「まわりに迷惑をかけている自分は生きていても仕方がないんじゃないか」など、様々な葛藤や自己否定感を抱えて毎日を過ごしているケースが見られます。その結果、心身ともに疲弊してしまい、生きる意欲を失うケースに至ることもあります。

② 保護者さんの変化について

子どもが不登校状態になったとき、上記のような子どもの不安を取り除くことが必要となりますが、その前提として保護者さん（特におかあさん）の不安を払拭し、保護者さんが「これでいいんだ」と思えるようになることが重要と考えています。

びわふりに参加し他の保護者さんと交流することで、保護者さんからは「こんな場所があるとは知らなかった」、「他にも同じ思いや悩みを抱えている保護者さんがいると知って安心した」、「子どもの不登校を受け入れている保護者さんのお話を聞いて、自分も大丈夫だと思えるようになった」といった声を耳にします。繰り返し参加するようになった保護者さんは、初参加のときと比べると、表情が明るくなり笑顔が見られたり、他の保護者さんとお話しや交流を楽しんだりされるようになり、明らかに良い変化が見られます。

また、この2年間はおとうさんの参加が増えたことも特徴でした。子どもやパートナーの置かれている状況や気持ちを理解して一緒に前に進もうという考え方のおとうさんが増えつつあるように感じています。

③ 子どもの様子の変化について

こうした保護者さんの変化と並行して、子どもたちの様子にも変化が生じます。

最初はまわりの様子をうかがって保護者さんから離れずに過ごしていた子どもたちも、回を重ねて参加するうちに他の保護者さんや子どもたちと、少しずつですが一緒に遊んだりスポーツをするようになる場面がこれまで数多く見られました。こうした子どもの様子の変化は、保護者さん自身が自分を受け入れ、子どもの不登校を受け入れ、主体的に前に進もうとした結果であると見ております。

加えて、保護者さんが家庭の中で安心して過ごせるようになり、そうした保護者さんの様子を見た子どもたちも、自己肯定感が醸成され毎日を安心して過ごせるようになったことを、活動の内外で保護者さんからお聞きすることができます。そのお話しぶりや子どもの様子からは、親子間の信頼関係が深まっているということが感じられます。

④ 今後について

不登校の児童生徒の人数は年々増加しており、2021年度には全国で24万人超で過去最高になったという文部科学省の調査結果も公表されています。びわふりは、ごくごく小さな活動ではありますが、不登校で悩んでおられる地域の親子さんの安心につながればという思いで、今後も活動を継続したいと考えております。

4、今後の課題など

びわりの活動をしていて感じる課題としましては、平日日中の保護者さんを支える居場所の確保ではないかと考えております。

不登校の子どもが家庭で過ごしている場合、特に小学生については保護者さんが平日の日中、家に居る必要があるのがほとんどです。子どもの興味は様々で、日々、それに向き合って対応できる保護者さんですと良いのですが、毎日対応できるのかといった課題があります。また、そもそも対応できない場合、分かりやすいのは子どもがゲームが好きな場合ですが、保護者さんが一緒にゲームをすることができず子どもの会話の内容や考えを理解、共感することが難しいケースも多く、それが毎日続きますと保護者さんのストレスも膨らみ子どもも保護者さんが理解、共感できないことにストレスを感じるようになります。

このようなことから、平日日中の保護者さんを支える居場所、あるいは平日日中に親子さんがそろって集える居場所の確保が大きな課題であると考えております。